参考資料１

阪神南北地域ビジョン委員会意見交換会の実施結果

１　日　時　　令和３年 10 月９日（土）13:30～16:00

２　場　所　　オンライン（Zoom）、阪神北県民局宝塚庁舎（第２会議室）

３　出席者　　54 名（オンライン参加 28 名、会場参加 26 名）
（阪神南地域ビジョン委員 25 名、阪神北地域ビジョン委員 21 名
講師１名、阪神南県民センター３名、阪神北県民局４名）

４　内容
新地域ビジョン案とその策定状況に対する理解を深め、新しい地域ビジョンをつくるため、他の委員と意見を交換しながら前向きな提案や活動案を考え、班ごと（オンライン６班、会場４班）に発表を行った。

（１）開会あいさつ
阪神南地域ビジョン委員会委員長　佐久間壮仁
阪神北地域ビジョン委員会副委員長　片山辰雄

（２）講師紹介
阪神新地域ビジョン検討委員会委員長、
兵庫県立大学自然・環境研究所教授　　赤澤宏樹

（３）新地域ビジョン案説明ビデオ　阪神北県民局　白井りか

（４）新地域ビジョン検討状況の説明　講師　赤澤宏樹
・最初のビジョン策定時は但馬地域ビジョンに、10 年前の改訂時には阪神地域ビジョンに関わり、今は全県ビジョン、阪神地域ビジョンの委員として策定に関わっている。
・今は、時代が急激に変わる節目なので、新しい視点も入れようと阪神南北のビジョン委員長や専門的な知識を持つ委員で検討委員会を立ち上げて策定している。
・検討委員会を５回開催し、およそ案がそろったところである。これから数回の検討委員会を経て、魂を入れるという作業に入っていく。
・ビジョン活動を行っている皆さんに、教えていただきたいことが二つある。

①　地域を一番分かっているのは、そこに住んでいる皆さんということで、魂の部分である「阪神地域らしさ」について。

②　活動している中で、自分たちの活動だけではできないが、こんなことができるようになったら、新しい将来が見えるということ。

・自動運転などの新しい技術により店が遠くても買い物ができる。そうすれば更にこんなこともできるとか、地域外や海外の方と新しいつながりができたら、こんな活動になるなど、阪神地域が変わるということがあれば阪神地域の将来像に魂が入ると考えている。

（５）「新地域ビジョン案に対する疑問点の共有」について

①　１班

・南海トラフ等、防災についてもっと考えてもいいのではないか。

・進むＩＴ化の中で、Zoom やラインをビジョン委員会だけでなく、地域の方に広げていけたらいい。

・阪神南北地区合わせて摂津の国と言われた経緯もあり、ひとくくりで考えて文化や歴史を知っていただくことで、まちを好きになるのではないか。

・少子化で人口減は仕方ないが、企業等を誘致することでまちがにぎわい、活性化すればいい。

②　２班

・「みんながつながるやさしいまち」の防災について、身近なところで防災体制が十分か。以前より自治体からの情報や訓練等で町内会でも意識が高まっているが、それで十分だろうか。阪神大震災を経験しているので、「公助」、「自助」とよく言われる。「共助」の一部かもしれないが「近助」というのがあってもいい。

・基本理念の「コ・クリエーションなまちの実現」の表現から、具体的なイメージがわくだろうか。「クリエーション」を「クリエイティブ」にしてはどうか。「クリエイティブ」という言葉は横文字ではあるが、定着している。検討してほしい。

③　３班

・大阪、神戸のベットタウンになっていることから、受入れるまちである。一方で独自性や多くの歴史がある地域なので、阪神地域が発展した歴史の経緯をもっと踏まえることで新ビジョンの内容に阪神らしさが出てくるのではないか。昭和時代は都市部に人が集中していたが、阪神地域に住まいを移すことによってもっと人間らしい生活をしていこうという歴史的な経緯もあった

と思う。
・2050 年になっても今と同じような取り組みをしているか。和歌山で水道管の破裂事故があったが、ＡＩ等を使って斬新的な取り組みをしていけたらいい。
・尼崎に住んでいる人がまちのいいところをざっくばらんに話すことができるなど、それぞれ各地域の特徴を再発見していくのも面白いと思う。

④　４班
・資料 P10「住んでよし」の「誰もが自然と参加できる」を「誰もが自由に参加できる」に変更してはどうか。
・過去の風習に捉われているところがあるのではないか。ＩＴをもっと取り入れて、地域ごとの特性をアピールしたまち自慢をつくるなど、ネットの活用を強化したほうがいい。
・兵庫県のホームページの宣伝告知力が弱いのではないか。ハッシュタグの活用、今回の Zoom 会議の取り入れなどもあるが、まだＩＴの面で弱いところがあるので、そこを強化する文言を追加したらいいと思う。
・ピクトグラムを取り入れて日本語が分からない外国人等への支援の強化なども取り入れてはどうか。

⑤　５班
・地域ビジョンの内容は素晴らしいと思うが、広く知られていない。住民に伝わるような形にしないといけない。ビジョン委員活動にも言える部分だと思うが、もっと身近なものにしていく描き方が必要である。
・この地域の 30 年後は、もっと便利になっていると思う。尼崎は大阪に隣接しているが、東京や名古屋に隣接する地域とどう違うかという強みを出すと、阪神地域の良さが出るのではないか。

⑥　６班
・「コミュニティ」という言葉は具体的に何を指しているのか。
・大学生と高齢者がささいなことを共有し、同じ思いを持った者同士で活動をするなどのつながりを増やすことができたらいい。
・先に仮想を描いて共感することができたら、現実と照らし合わせて課題や必要なことを発見できるロジカル展望を提案したい。
・私自身は西宮市民であるが尼崎や芦屋も知って関わりたいと思うので、市民だけではない市民の存在ということで、市民外にもフューチャーして活動ができたらいいと思う。

⑦　Ａ班

・グローバルな視点から新しい時代に対応した阪神らしさとは何か、「共に」「創る」を目指すためにどうやって創造力を育てるのか、近隣とのつながり方をどう活かしていくかを考えていく必要がある。
・新地域ビジョンに過去、現在がどれだけ活かされ、どれが未来に組み入れられたか、住民に理解されるよう周知の方法を考える。
・個人を大切にすることと、社会生活をより良くするために必要な情報開示とのバランスをどう考えるか。
・地域ビジョン活動の具体策が伝わっていないのではないか。
・防災、減災、安全、安心の高まりなど、抽象的な言葉を分かりやすい言葉で伝えてほしい。

⑧　Ｂ班

・高齢化が進み、自治会離れにより多世代交流の場が少ないのが問題である。
・便利すぎる情報化社会によって、人と人のつながりが希薄になり、他の人と関わりたくない、関わられたくない、対話がない、無言で済ませる社会になっているのではないか。地域の活性化、地域で災害や火事が起こった時に大きなマイナス要因になるだろう。
・世代によって生活様式が違い、会話が成立しないところをどのように変えていけばいいのかが課題である。
・インフラの整備が進められる中で、地域活動で女性の参加を増やし、いろんな立場や役も担っていただいて、活躍していただく必要があるのではないか。

⑨　Ｃ班

・スマートシティを推進するまち、超高齢化社会への対応、グローバル化への対応が必要である。
・博物館、ホールや施設を充実させ、子供や外国人、シニアを含む多世代がつながるよう、伸び伸びとした生き方を求め希望を持てる教育をする。
・防災訓練を行うなど、外国人と関係をもつ取り組みをする。
・地域の子どもたちとの交流は、学校から要請を受け下校時の見守りをするくらいで、日頃は公園内で見かける程度である。これから高齢化社会になり、子ども達と楽しく兵庫県内を散策できるような楽しみをつくっていただけたらと思う。
・地域の特性を生かした自然とまちづくりのため、いくつになっても人と人のつながりをもつ生き方をし、交流を掲げるではなくアクションしたい。

⑩　Ｄ班

・人口の減少と地域の温暖化、限界集落により山林原野の崩落等で自然災害が発生している。地域の活性化を図っていく必要がある。
・都会の方に農業体験をしていただく機会を作り、興味を持ってもらうことを進めていきたい。
・阪神間モダニズムの現状拡大を願う。
・文化向上のため、各市の方々と交流を図りたい。
・コロナ禍でのビジョン活動の進め方として、誰でもいつでも「ちょっと参加」「ちょっと手伝い」ができる多様で個性的なライフスタイルを育む土壌づくりを推進している。

質問に対する回答

（白井班長）

・県民の皆様にビジョンについて広く知られていないというご意見いただいたので、周知の方法を検討する。
・基本理念の「コ・クリエーションなまちの実現」の「クリエーション」を「クリエイティブ」にしてはどうかという意見について、「クリエイティブ」は「創造」でつくり出すという意味だが、「クリエーション」は、多様な方々と話し合い、お互いのことを理解しながら新しい関係をつくり出していくという、意味で進めている。意見を踏まえ検討する。

（講師　赤澤宏樹氏）

・資料 P10「住んでよし」の「誰もが自然と参加できる」を「誰もが自由に参加できる」に変更してはどうかという提案に関して、もともと「自由に」だったところを「自然に」に変更したと記憶している。今住んでいる方の取り組みだけでなく、これから人口が減っていく中で人口が流動化し、若い方やお年召した方、外国の方も来るだろう、いろんな方々が初めて阪神地域に入るためのハードルが低く、魅力的な条件を整えようというニュアンスが強い。入ろうと思っている人は「自由に」入るという感じで、今回は更に全くコミュニティに入ろうと思ってないが、「自然と」コミュニティに入っていたみたいな積極的ではない方や入り方が分からない方でも、新たに阪神地域のコミュニティの仲間になっていただくというニュアンスを込めて「自然に」とした経緯があった。

（６）「新地域ビジョンの実現に向けた活動」について

①　６班

・外国人とコミュニケーションをとる機会に言語の障壁を埋めるシステムや手段の開発があればスムーズに意思疎通ができるのではないか。
・できる時にできる人ができることを楽しみながら活動する。皆に合わせないといけないという事をやめて、自由な発想で個人が楽しくできるようなシステムづくりができたらいい。
・最初からルールに縛られて考えるのではなく、つながりや自分の本当に理想の姿を映像やデジタルの仮想空間で表現して考えてみるのもいい。
・ビジョン委員でもズームやラインを使うようになり、情勢もデジタル化している中で、使いこなせない方がすごく多いのでオンラインコミュニケーション説明会や教える機会があれば、どんどん社会全体がデジタル化に進んでいくと感じる。

②　５班

・P14「市民の取組」の三つ目、「環境・場づくり」はビジョン委員の取り組みの中で重要である。
・外国人等の情報難民をなくすことが必要である。
・「市民の取組」の二つ目、「新規住民を受入れ支援をする意識と行動」の「住民」と「市民」の表現がよく分からない。

③　４班

・ビジョン委員の活動をＩＴ化し、兵庫県のいいところをＰＲしていくために、ＳＮＳができる人から発信する。
・市民とビジョン委員の交流が少ないので、県民センターの１階をオープンカフェにして、市民との話し合いの場にする。
・独居高齢の方の安否の確認方法として、市民と交流できる方法を作っていく。
・多様なコミュニティを作っている方もいるが、ビジョン委員自身でいろんな枠を超えたコミュニティをつくることで防災活動へもつなげることができる。
・情報難民の話があったが、誰もが地域の情報を得やすい環境を作っていく。

④　３班

・阪神地域は人の出入りが激しいという背景がある中で、市民が入る場がないことには活動が難しい。
・誰が主体にするのか明確にしないと活動が進まない。自治会が重荷になって

機能しないなど、リーダーシップを持った誰かが指揮をとらないことにはまわっていかない。まわし役が必要ではないか。
・参加の選択肢を増やし、完全オンラインや、行政だと副業人材など強みを生かして働くことを市民活動でも取り入れていくべきではないか。

⑤　２班
・地域活動で活動の成果を何かにつなげたいとき、行政経由でアクションをとるのが普通だが、行政は縦割り組織で一つの話なのに複数の課に関係していて進めにくい。
・自治会等と行政の間に介在して何らかの計画を進めるときに相談にのってくれるコミュニティプラザ的な組織を作っていければいい。具体的にはどうすればいいか難しい。
・ビジョンの方向性の中で「自然、歴史、文化が息づくまち」の趣旨を踏まえた活動はできるし、それをアウトプットしやすい成果があればいい。ビジョン活動をもう一度振り返ってやれることはあるのではないか。

⑥　１班
・一日一善が５年するといろんな形でのつながりができて情報共有ができるのではないか。挨拶をするなど簡単なことでいい。
・自分のまちが好きになるアクションが必要である。
・自治会等地域の会議を仕切っている人が高齢でＩＴについて学ぼうとする人もいるが、学ばない人もいる。意識改革が必要ではないかと思うが、永遠のテーマで具体的な方法は見つかっていない。
・学校、行政、自治会等が集まって話ができる場があればいい。つなげる場が、防犯、防災につながる。高齢者、障害者施設の施設見学等でも世代間交流が図れるのではないか。

⑦　Ｄ班
・「７市１町の１７５万人のいいね」を実現していきたい。
・都市部は公園や散策ができる場所があまりない。多世代交流のため健康遊具や子供向け遊具を入れるというような形の整備が必要である。
・大学一帯となったコミュニティの実現のため、いつでも参加できる場所づくりを推進していきたい。
・オンラインで地域の移住を拡大して、自然豊かな人生を送る。
・ＪＲ北伊丹駅の駐輪場を３階建てにして、１階に地域の産直物産や地元のお土産を販売し、３階の一部を防災の避難場所にできるようにしたい。

⑧　Ｃ班

・地域のボランティア活動に積極的に参加して顔見知りになる。子どもに昔の遊びや暮らしや祭りを伝え、一緒に植樹やエコツアーを行い、外国人や高齢者等含めた多世代が参加できるイベントを実施する。
・体力を整えていくつになっても働く。働くというのは労働ではなく、働くという文字を分解すると人は動くである。働く人はみずから動ける体に、それが健康であればぼけ防止であり、きちんと対話ができるようにしたい。

⑨　Ｂ班

・スマホの普及で若者は人と付き合いたくないというような動きがあるが、この際高齢者の方から積極的に若者や小中高校生のところへ入って話した方ほうがいいのではないか。
・学校へ見守り隊として入ったり自分ができることを教えたりできる交流の場が必要である。
・祭りや行事で若者にテントを張るのに力を貸してもらうなど、大学高校と連携して積極的に進めたらどうか。ビジョン委員が情報を集めて、公民館、図書館など公的なセンターを利用して、積極的に交流の場づくりを行う。

⑩　Ａ班

・近所と連帯感があり、市民が共に楽しめる身近な場づくりが必要である。
・子どもが子どもらしくある環境や自由にのびのびする環境がなく、いろんな制約がある。我々市民だけで限界がある。
・隣が何をしているか分からない、個人主義で触れたくないような感じになってきたが、地震や災害が起こった時に自治会は必要である。阪神大震災でもみんなボランティアを行った。隣人は非常に大切である。自治体の加入率が悪いが隣人と助け合うことから自治会が復活していくと思う。
・自分たちがやりやすい一番いい方法でやっていかないと長続きしないと思う。
・生涯学習で、大学を開放して自由に使えたらいい。少子化で１人が重要な役割を持つため大切に育てていかないといけない。教育は非常に大事である。

（７）講師による講評

・お疲れさまでした。直接お話を伺うことができて非常に参考になった。皆さんがビジョンの実現に向けて、一緒にやっていると感じられるような新地域ビジョンにするということで心が引き締まった。ありがとうございました。

・できるだけ反映できるように努力していく。
・基本理念を「クリエイティブ」にということですが、「クリエーション」という言葉を「クリエイティブ」に直してもまだ分かりにくいかもしれないし、日本語の「共創」ということにしたら余計に新しい言葉になって分からないかもしれない。ただ、新しい言葉にしないと、新しい考え方が伝わらないということもあって、これから皆さんの意見をもとに「クリエイティブ」になるかもしれないし、日本語でもっと分かりやすい言葉になるかもしれない。これは悩み続けて最後の最後に一番のタイトルが決まるのではないかという気がする。
・阪神地域の特性に対して、ベッドタウンを受け入れた方がいいという話も出てきて、阪神地域には歴史文化があって、自然が豊かであることやこれまでの都市化が始まった経緯もあったという話があった。この阪神地域の特性の部分に書いたつもりでいるが、もともと何者にも変えがたい、おそらく未来将来にかけて変わらない価値として残っていくだろうというべき「自然」があって、その上にベットタウン、コミュニティ、文化活動といった「社会」があって、その上に「経済活動」がある。その経済活動がおそらくコロナ禍によって変わってくると、大きな企業や工場が来るだけではなくて、小さな会社が来るとか、個人で起業するとか、大学生がスタートアップで新しい仕事をつくるということが住宅地でも自由にできる社会に変わるのではないか。そういう期待を持って、変わらない価値の上に社会が積み上がって経済活動があるという、それが阪神地域だからできるということが一目で分かるように、まとめ方も含めて検討していきたい。
・シナリオの柱は大きくは四つあって、その下にいろんなテーマがぶら下がっている。おそらくそれぞれの特色を出すために、一つ一つが独立して整理している。おそらく皆さんから、防災は書いているがもっとやったほうがいいとか、健康関連やコミュニティに関しては多くの意見が出ました。書いてはいるけれども、多くの意見が出るということは、おそらくこの中のつながりが見えないと思う。防災にしても、阪神淡路大震災を経験した我々は日常のコミュニティ活動があったからこそ、助け合うことができるとか、健康だからこそ働けるみたいなことは、いきいき健康１００年人生があるから、市民と地域と仕事が重なる暮らしができるとか、若くてもスタートアップができるとか、地域活動への参加できるとか、いろんなシナリオの間のつながりが非常に重要と感じる。全県ビジョンでは、この一つ一つのシナリオのつながりを線でつなげている。ただそれを見たら全部線がつながることなるから、阪神の新ビジョンではこういうふうに、すっきりと整理しているが、皆さんからのいろんなことがつながって阪神地域らしさや社会ができるのだろうと

いう意見をいただいたような気がしている。改めていろんなシナリオが繋がってこそ、阪神地域ができるという表現の仕方を工夫したいと強く思った。

・皆さんからご指摘いただいて弱かったと思ったことがあって、一つは「住んでよし」になる前に住もうと選んでもらわないと「住んでよし」が始まらないという話があった。いつでも誰でも参加できる場づくりが必要だと、我々の活動の中ではそういったことを重視したいという意見も多くあった。これは非常に重要でシナリオのいろんなところに、ちりばめられていると考えたが、考えていた以上にシナリオを具体的に取り組むものとして前に出して、そこを広い入口にして、いろんなシナリオにいろんな人達が入ってこられるという、人を誘導するような形だからこそ新しい価値が生まれるような、阪神地域になるためには、その入口を作るということ、こうやって進めていったらこれが実現するかというふうな部分に変えていったらいいのではないかということを、皆さんの意見を聞いて強く感じた。

・検討委員会に持ち帰って、委員の方からの意見も聞きながらまとめてくが、非常に反映できるところが多かったという気がしている。ありがとうございました。